

臨床研究に関する情報公開

<人を対象とする医学系研究に関する倫理指針>に基づき、研究の実施について情報を公開します。

★本研究に関するご質問等がありましたら下記の<お問い合わせ窓口>までご連絡ください。

★ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書および関連資料を閲覧することができます。

★試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の<お問い合わせ窓口>までご連絡ください。その場合でも、患者さんに不利益が生じることはありません。

<研究課題名>

リンパ腫に対する WHO2016 年新分類による予後と腫瘍微小環境の評価による新たな予後因子の比較評価研究

<研究機関・研究責任者名>

日本大学医学部附属板橋病院 血液膠原病内科（研究責任者） 高橋宏通

<研究期間>

承認日 ～ 西暦 2023 年 12 月 31 日

<研究の目的と意義>

リンパ腫はB細胞性リンパ腫、T細胞性リンパ腫、ホジキンリンパ腫に主に分類され、その分類ごとに治療戦略があり、それぞれ個別に治療することにより予後が改善していることが知られています。しかしながら、治療の進歩とともに解決されるべき課題が残されています。

リンパ腫においては、以前より WHO という世界保健機構で分類が公開されており、これまでは WHO2008 年の分類にて、診断、治療を行ってきました。しかし、診断法、治療法は日々進化しており、リンパ腫において新たな分類が 2016 年度版として WHO から発表されました。そのため、これからは新分類での診断となりますが、新分類での当院での治療成績はわかっておらず、これからの治療法を決定する意味でも検討すべき重要事項となっています。

また、最近では腫瘍本体でなく、その周囲を構成する正常細胞を腫瘍微小環境と呼びますが、それが腫瘍の悪性度に大きく関わっているとの報告があります。そのため、当院で治療を受けたリンパ腫患者さんの検体に対し多重蛍光染色を用い、T細胞やマクロファージなどの腫瘍微小環境がリンパ腫の予後に与える影響を評価します。

これらの研究において我々は、リンパ腫に対する新分類で過去の症例を再検討することで当院でのリンパ腫患者さんにおける治りやすさ、治りにくさの要因を明らかにし、今後のより良い治療戦略へと応用することが目的です。

<利用する試料・情報の項目>

本研究は日本大学医学部附属板橋病院血液膠原病内科において診療を受けたリンパ腫患者さんの臨床データ（検査データ、診療記録、保存病理検体）を用いて行う研究です。

検査データ、診療記録をまとめ、データベース化いたします。また、患者さんから得られた保存病理検体を用いて新規に多重免疫染色を行います。

<対象となる患者さん>

本研究の対象患者の期間：西暦 2000 年 1 月 1 日 ～ 西暦 2020 年 12 月 31 日に当院でリンパ腫との診断を受けた患者さん。

<研究の方法>

該当する症例の診療録において、リンパ腫の疾患特性（血液・尿検査結果、画像検査、診療録および病理保存検体の形態学的・細胞遺伝学的・免疫学的プロファイル）と臨床像の関連性、および予後との相関関係を調査します。個人情報厳密に管理され、個人が同定され得るデータは施設から出ることはありません。

<お問い合わせ窓口>

日本大学医学部附属板橋病院（東京都板橋区大谷口上町 30-1）

血液膠原病内科

氏名：高橋 宏通

電話：03-3972-8111 内線：(医局)2402 (PHS)8033

日本大学医学部附属板橋病院(ver.1705)